

こくごであそぼ

— 「遊び」をとりいれた授業の試み —

国語科 島村 潤一郎

ただ単調に教科書を進めるだけでは面白くない。ということで、私の授業においてはできるだけ「遊び」の要素をとりいれるようにしている。今回の紀要はそういった小ネタ的なものを集めたものである。

キーワード：国語 遊び クイズ 気づき

一 授業における基本的なスタンス

いきなりで何なのだが、実は、私は高校時代、国語が嫌いだった。五教科で一番嫌いだったのが国語。なぜかという話から始めたいと思う。意外に思われるかも知れないが、結構好きだったのは数学である。難しい問題を一時間二時間考えて解けると、「ああ、解けた」「わかった!」という快感がある。脳科学者の茂木健一郎氏に言わせると、こういうのを「アハ体験」と言うらしい。「ああ、わかった」と扉が開く、天井が抜ける、そういった知的快感そのものが、勉強における一つの大きな報酬なのだというのだが、高校時代の国語の授業を振り返ってみて、何がなかったかと言えば、これがなかった。別の言葉で言うならば、「気づき」がない。「て／て／つ／つる／つれ／てよ」では何も発見はない。覚えるしかない。現代文であれば、教科書を読めばだいたい理解できてしまう。教科書の内容をなぞっているだけでは、何の発見もないし、何の知的快感もない。

もう一つ強く思うのは、日本の教育においては「笑い」や「遊び」といった部分が軽視され過ぎているのではないかということである。私は教師というのはサービス業、授業は知的エンターテイメントだと考えている。今回のタイトル「こくごであそ

ぼ」はおわかりのように、「にほんごであそぼ」からとっているのだが、斎藤孝氏は言っている。外国人に言わせると、日本人のスピーチはつまらない。決まりきったフレーズがあって、例えば「本日はお日柄も良く」とか「宴闌ではございますが…」など、形式的な冗語ばかりが多くて、冗語を取り除いてしまうと、長くしゃべっているのだけれども、内容はわずか。これが外国人には評判がよくないのだという。

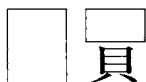
ということで、今回の原稿はかなり砕けたものになると思う。端的に言うと、「小ネタの寄せ集め」である。しかし、「ああ、なるほどそうか」とか、「教育現場に持ち帰ってネタとして使えるな」とか思っただけだったら、それで十分と私は考えている。

二 「遊び」をとりいれた授業の試み 1

— 漢字クイズ（一年）と字謎（一年漢文） —

「遊び」をとりいれた授業の試み、まず一つ目である。例年一年生を対象に「漢字クイズ」というものを行っている。一学期、毎週、週の頭の授業で行っている。どういうパターンかと言うと、空欄の中に同じ漢字を入れ、言葉を作りなさいという問題である。資料1を参照していただきたい。

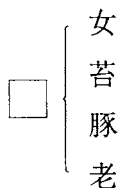
例題 1



難しい問題にはヒントを出している。この問題であれば、「石川県の人間であればわかってほしいよね」と。おわかりであろうか。答えは「加賀」である。

二学期は、次のような形式になる。

例題 2



二字熟語になるように空欄に適切な漢字を入れる問題である。例題 2 の答えは「海」である。

ちなみに資料の問題の答えは一番最後につけてある。読者にも考えてもらいたい。

三学期は、「中国語クイズ」というのを行っている。同じ漢字文化圏の国なのだが、彼らは片仮名を持たない。だから外来語も全て漢字で表記されることになるのである。

例題 3

- ①便利商店 ②熱狗 ③微軟
- ④可口可樂 ⑤水瓶座 ⑥力保美達
- ⑦迷你裙 ⑧蠟筆小新

①便利商店、これが何かわかりであろうか。英語に置き換えればいいわけである。答えは「コンビニエンスストア」。では、②は？ 「羊頭狗肉」や「狡兎死して走狗烹らる」という言葉がある。そこから考えていけば簡単であろう。「狗」は「いぬ」, 「熱い犬」だから、「ホットドッグ」である。因みにもう少し話しておく、中国人が外来語に漢字をあてがうやり方には三つのパターンがある。一つは「熱

狗」のように、「意味的に置き換えるもの」、もう一つは「音で置き換えるもの」、例えば「克林頓」は「クリントン」となる。最後が「音+意味」のパターンで、例えば④可口可樂がそれに相当する。日本式に読むと「カコウカラク」で、さらに意味的に考えると口に含むと口が楽しくなる。答は「コカ・コーラ」である。⑥の「力保美達」はおわかりであろうか。美容にいいかどうかはわからないが、力が湧く、このあたりから考えてみればいいようである。⑦の「迷你裙」も上手いと私は思った。上海の街角でバーゲンをしていて、その看板にあったのである。「迷你」の「迷」は「迷路」の「迷」, 「你」は「你好」の「你」, 「裙」は衣偏だから衣服に関係すると思ってもらっていい。漢文式に読ませると、「あなたを迷わせる裙」、音は「メイニー」、そこから考えてもらいたい。答は末尾にまとめて載せてあるので、後で参照していただきたい。

このような問題を毎週出して、一年の最後に一番正解の多かった生徒に賞品を授与することになっている。

次に、資料 2 と資料 8 をご覧いただきたい。教科書で「死せる諸葛生ける仲達を走らす」が出てくるが、それだけだとおもしろくないので、関連のある文章をプリントで準備して、読むことにしている。『三国志』では、敵役として扱われがちな曹操と曹一族であるが、聡明な教養人が多かったと言われていた。こんな話があるという。ある時、曹操は「酪」というものを貰って、その蓋に「合」という漢字を書いた。周りの者たちはその真意を酌み取ることができなかったのだが、楊脩という男がその絵解きをしたというのである。「合」を分解すると、「人」「一口」になる。「君たち一口ずつ食べてもいいよ」というメッセージだったのである。三つの文章を二十五分程度で読み、後半は「字謎（漢字なぞなぞ）に挑戦」に取り組みむことにしている。

例題 4

①一日夫

ヒント 単純に合成すればわかるはずです。

②孔子登山

ヒント 孔子様が山登りをなされるわけです。

まず「山」という字の上に「孔子」と書いてみてください。それからこれは漢文で学習済みだと思いますが、孔子様の名前を思い出してみてください。

③还不走車来了

ヒント 「まだ行かないの、車が来たのに」ぐらいの意味ですが……。

授業の後半二十分程度でこの漢字クイズを行うのだが、ポイントは何かと言うと、後半の二十分を半分に切るということである。最初の十分間は一人ひとり自分で考えるように指示する。後半十分は、友達同士で相談してもよいことにする。点数も与える。「一人でわかったら今度のテストにプラス六点します。一人で六点ゲットしたい生徒は自分でやりましょう。二人で協力すると一人三点になりますよ、三人で協力すると一人二点になりますよ」という具合にである。協力してよいことにすると、どうことが起こるか。交流が起こるのである。「自分はこういうふう思ったけど、お前はどう思ったんだ？」などという交流が生徒間に生まれるのである。

三 「遊び」をとりいれた授業の試み2

— 名言をつくろう (二年現代文) —

次は、「名言をつくろう」である。これは平成十四年度の研究紀要にもう既に載せてあるので、簡単に済ませようと思う。「名言で語る世界史」という企画を現代文の授業に取りいれている。人間の歴史、時系列に沿った形で、古代メソポタミアの辺りから一つ一つ名言を紹介していくのである。その発

展形である「名言をつくろう」という授業では、フォーマットを決めて生徒に名言をつくらせている。生徒たちが考えた作品にはこんなものがあった。「好きな人がいない毎日は制服に似ている。悩まなくてもいいけど、何か物足りない。」また、「教師」と「先生」の違いを、ある生徒はこう定義している。「勉強を教えてくれるのが教師。勉強よりも大切なことを教えてくれるのが先生。」教員側がなるほどと頷かされる名言に出会えたりする。このあたりがこうした生徒発想型の授業の面白いところだと考えている。

四 「遊び」をとりいれた授業の試み3

— 語源クイズ (三年) —

三年生を対象に「語源クイズ」というのをやっている。「何気なく『うだつがあがらない』と言うけれども、『うだつ』って何でしょうね。」とか、そんな感じである。一学期は○×形式である。

(1) ○×クイズ (1学期)

- ①「うだつがあがらない」というが、「うだつ」というのは古い関西方言で風のことである。
- ②「おじゃんになる」というが、「おじゃん」というのはもともと火の見櫓の半鐘の音からきている。
- ③「みどりの黒髪」というが、これは昔美しい黒髪で知られたみどりさんという遊女が吉原にいたことに因む。
- ④「おじや」というが、これはもともと新潟県小千谷地方の郷土料理である。
- ⑤「ワイシャツ」というが、広げるとYの字になるからワイシャツという。
- ⑥「金字塔」というが、これはもともとピラミッドのことを指す。
- ⑦「かずのこ」はたくさんの数の魚の子が集まっているから数の子という。

⑧「うなぎのぼり」というが、うなぎには水面に向かって急に上がっていく習性があることから生まれた言葉である。

⑨「きんぴらごぼう」というが、これは「きんぴら」という力持ちの男が昔いたことに因むものである。

⑩「ボン酢」というが、これはもともとオランダ語で「柑橘類、柑橘類の絞り汁」を意味する言葉である。

(2) 選択肢問題(2学期) 五つのうちから一つだけ違うものを選ばせる。

①倒語 イ、デカ(角袖) ロ、スカ(滓)

ハ、ドヤ(宿) ニ、ネタ(種)

ホ、ダフ屋(札)

②博打 イ、思うつぼ ロ、ほんくら

ハ、鉄火巻 ニ、二足の草鞋

ホ、ちょうちょうはっし

③日本刀 イ、しのぎを削る

ロ、反りが合わない ハ、しっぺ返し

ニ、切羽詰まる ホ、身から出たさび

④刀鍛冶 イ、火ぶたを切る

ロ、地団駄を踏む ハ、とんちんかん

ニ、あいづちをうつ ホ、焼きがまわる

⑤衣(地名) イ、ビキニ ロ、カシミア

ハ、トレンチ ニ、デニム ホ、ジーンズ

⑥食(地名) イ、ウインナー

ロ、ハンバーグ ハ、ミルフィーユ

ニ、ババロア ホ、カステラ

⑦相撲 イ、腰くだけ ロ、勇み足

ハ、いたみわけ ニ、ふんどしかつぎ

ホ、幕の内弁当

⑧ギリシア神話 イ、サイレン

ロ、サラリー ハ、パニック ニ、エコー

ホ、ヨーロッパ

⑨芝居 イ、板につく ロ、二枚目

ハ、こけら落とし ニ、のべつまくなし

ホ、ろれつがまわらない

⑩合戦 イ、馬脚を現す ロ、ぬけがけ

ハ、大わらわ ニ、矢面に立つ

ホ、満を持す

⑪囲碁 イ、八百長 ロ、一目置く

ハ、岡目八目 ニ、凶星 ホ、駄目

⑫ポルトガル語 イ、ピンからキリまで

ロ、ばってら ハ、襦袢

ニ、シカトする ホ、合羽

⑬三国志 イ、白眉 ロ、圧巻

ハ、水魚の交わり ニ、髀肉の嘆

ホ、三顧の礼

これらの問題から話題を広げることもしできる。例えば「おじや」の語源だが、地名からきているというのは×である。この問題に絡めて、女房言葉の話は私にしている。女房言葉には二つのパターンがある。一つは、「おじや」のようなパターン。おじやを作る時には、「じやじや」と音がする。語頭に「お」をくっつけ、下の「じや」を消して「おじや」。こんなふうにしてできあがった言葉は日本語には結構多い。「田楽」に「お」をつけて、後ろの「楽」をとって「おでん」。「鳴らす」に「お」を付けて、後ろの「す」を消すと、「おなら」。女房言葉のもう一つのパターンは、頭の語を拾ってその後に「文字」を付けるものである。例えば、「そなた」の「そ」に「もじ」がくっついて「そもじ」。「杓子」の「しゃ」に「もじ」を付けると「しゃもじ」。いくつか例を示した後で、生徒にも考えさせる。古語に「ひだるし」というのがあるが、「同じ要領でやると、どんな現代の言葉が現れてくるかな」と生徒にやらせてみるのである。答は「ひもじい」、それを紹介すると「はあ、なるほど!」となるわけである。この時は、女房言葉と絡めて、現代の若者言葉の話をする。例えば「空気が読めない」を略して「K

Y]。「昔の人たちも似たようなことをやったんですね」と話したりするのである

二学期に入ると、選択肢の問題になる。五つの選択肢の中から一つだけ違うものを選ばせる形式になる。例えば⑧、四つはギリシア神話の世界から生まれた言葉で、一つだけ関係のないものがある。そして「この問題がわかったらプラス二点！」というようなことをやるのである。さて、「ギリシア神話」ではどんな問題を出すかと言うと、ハズレのサラリーから問題を出す。古代ローマのあの時代、兵士に塩を給料がわりに与えていたところからサラリーという言葉が生まれたのだが、塩を語源とする言葉が他に答えられたらプラス2点ということをやるのである。生徒が怪訝な顔をしたらヒントを出す。「実はさりげなくここまでで伏線張ってあるんだよねー」というのである。「塩はsaltだよねー」というと勘のいい生徒は手を挙げる。おわかりであろうか。答はsoldierである。他にもネタはいろいろとある。DENIM（デニム）、Mをひっくり返すとWになる。並べ変えてみてもらいたい。アナグラムである。どんな言葉が現れてきくるか。ジーンズメーカーの「EDWIN」はこうして生まれたわけである。では演劇用語の「フットライト」から生まれた言葉は？ステージの上で役者が足下から光を当てられ観客の注目を浴びることから生まれた言葉である。そうである、「脚光を浴びる」はこういうところから生まれたものなのである。

五 「遊び」をとりいれた授業の試み4

ー バトルロイヤル ー

このバトルロイヤルでは、同じ列を一つのグループとして競争させる。例えば「さんずい」の漢字をどれだけ書けるか競争させる。後半になってくると、「どうする！どうする！」と盛り上がる。点数を与えたり、図書カードをプレゼントとして出したりすることもある。「難読語バトルロイヤル 読め

るか難読語百連発」は、黒板にどんどん答えを書かせる。わかるものがなくなった時点でそのグループは脱落ということになり、最後まで生き残ったグループには一人三点を与えるなどしている。文系の生徒を対象に「文学史バトルロイヤル」もしている。

六 指名の仕方 ー カード式授業 ー

年度初めの授業でカードを配り氏名を書かせて集めるということを行っている。そして、授業でシャッフルして引いたカードの生徒を当てるのである。授業評価のアンケートを見ると、「カードをめくって当てる方式だと、いつ指名されるかわからないので、授業中も集中しやすい。だから、他の先生にもこのやり方を広めてほしい」と書いている生徒がいたので、この場を借りて紹介させていただくことにした。ただ、マイナス意見もないわけではない。カードは一応シャッフルして引いているのだが、偏りが出ることが時にあって、いつも同じ人が当たってばかりいるという意見が聞かれることもないわけではないのである。

(1)

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
昔	□	回	謂	□	田	嘗	□
□	肩	□	□	買	□	□	□

(2)

⑤	④	③	②	①
系胡南西	□	□	□	□
□	金昏泉河	器産筆用	童岸口豚	老豚苔女

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥
□	□	□	□	□
逸樂自活	賊羊葵車	經話酒樂	間鳥代化	濟姓足舌

⑪
紙金木章
□

曹一族の機知

題^{シテ}合^ノ字^ヲ以^{ツテ}示^ス衆^ニ

人^ニ餉^ヲ魏^ニ武^ニ一^ニ盃^ヲ酪^ヲ魏^ニ武^ニ噉^ク少^シ許^シ蓋^シ頭^ノ上^ニ題^シ

合^ノ字^ヲ以^{ツテ}示^ス衆^ニ衆^ニ莫^シ能^ク解^ス次^ニ至^ル楊^ヲ脩^シ脩^シ便^チ噉^ラ

日^{ハク}「公^ヲ教^シムル^ヲ人^ヲ噉^ラハ一口^ヲ也^{ナリ}。復^タ何^ノ疑^ハ」^{ハント}〔捷^シ悟^ゴ〕

前^ニ有^リ大^{イナル}梅^林

魏^ニ武^ニ行^{ハク}役^{シテ}失^キ汲^ヲ道^ヲ三^ニ軍^ニ皆^ク渴^ス乃^チ令^シ日^{ハク}「前^ニ有^リ

大^{イナル}梅^林饒^{シテ}子^ミ甘^{ナリ}酸^{ベシト}可^ク以^{ツテ}解^ク渴^ヲ」士^ノ卒^ノ聞^キ之^ヲ口^ヲ

皆^ク出^ル水^ヲ乘^{ジテ}此^ニ及^ブ前^ニ源^ニ。〔仮^カ譎^{ケツ}〕

令^{シム}七^ノ步^ノ中^ニ作^ラ詩^ヲ

文^ノ帝^ノ嘗^{カフテ}令^メ東^ノ阿^ノ王^ヲ七^ノ步^ノ中^ニ作^ラ詩^ヲ不^レ成^ラ者^ヲ

行^{ハトス}大^ハ法^ヲ応^{ジテ}声^ニ便^チ為^レ詩^ヲ日^{ハク}、

煮^レ豆^ヲ持^{ツテ}作^レ羹^ヲ漉^{シテ}豉^ヲ以^{ツテ}為^レ汁^ヲ

其^{マメ}在^ニ釜^ニ下^ニ燃^エ豆^ハ在^ニ釜^ニ中^ニ泣^ク

本^{ヨリ}自^ニ同^ニ根^ニ生^{ジタルニ}相^ニ煎^{コト}何^ノ太^ハ急^{ナルト}

帝^ク深^ク有^リ慙^ハ色^一。

〔文^文学^学〕

(9) 餉—飲食物をおくる。
 (10) 酪—ヨーグルトの一種。
 (11) 少許—少しばかり。
 (12) 蓋頭—盃のふた。
 (13) 題—書きつける。
 (14) 楊脩—後漢末の人。字は徳祖。(二七五—二二九)
 (15) 捷悟—勤がよく働き、察しが早いこと。

(16) 行役—行軍。
 (17) 汲道—水をくみに行く道。
 (18) 三軍—大軍。古代の兵制では、一万二千五百人を一軍とした。
 (19) 前源—前方の水源。
 (20) 仮譎—人を偽り欺くこと。

(8) 大法—重大な国法。ここは、死刑。
 (9) 羹—吸い物。
 (10) 豉—みそ。
 (11) 何々—疑問。
 (12) 文学—学問・詩文のこと。

字謎（漢字などなど）に挑戦

- 1 一日夫 ヒント・単純に合成すればわかるはずです。
- 2 山上又山有
- 3 鏡中人 ヒント・2の答と3の答はちょうど反対です。
- 4 九十九 ヒント・九十九歳のお祝いを何というんでしたっけ？
- 5 九点 ヒント・「十二点」は「斗」です。「十三点」は「汁」です。
- 6 八千女鬼 ヒント・三国志に曹操という人物が登場しますが……。
- 7 武昌蜂起 ヒント・辛亥革命の発端となった武昌蜂起が起こったのは十月十日でした。
- 8 車中猿 ヒント・「車」という字をじっと見つめてください。中に一匹の「さる」が隠れていることが見えてくるはずです。
- 9 十五人 ヒント・「人」が15と考えるよりも「10」があつて、「人」が5と考えた方がいいと思います。答は雨の日に使うものです。
- 10 七十二時 ヒント・七十二時間というと、3日間ということになりますよね。
- 11 草上飛 ヒント・草の上が飛んでいってしまうわけです。
- 12 孔子登山 ヒント・孔子様が山登りをなされるわけです。まず「山」という字の上に「孔子」と書いてみてください。それからこれは漢文で学習済みだと思えますが、孔子様の名前を思い出してみてください。
- 13 欧州人 ヒント・ヨーロッパの人って基本的に白人ですよ。
- 14 太陽王 ヒント・答は「ルイ十四世」ではありません。
- 15 雷而无雨 ヒント・雷が鳴っているけれども雨が降らないってことですが……。
- 16 还不走車来了 ヒント・「まだ行かないの、車が来たのに」ぐらいの意味ですが……。

名言をつくろう

パート1 較べてみれば

常日頃、我々は何気なく日本語を使っています。似たような意味を持つ言葉がいろいろありますが、我々は意識するにしろ、しないにしろ、どこかでそれらを使いわけているものです。例えば「恋」と「愛」。どちらも英語にすれば〈LOVE〉ですけれど、この二つは決して全く同じ意味内容をカバーするものではありません。それが証拠に「家族愛」という言い方はするけれど、「家族恋」という言い方はしないですね。「文化」と「文明」だってそうです。「文化祭」という言い方はするけれど、「文明祭」という言葉はない。やはりこうした両者の間には微妙なニュアンスの違いがあるようです。今回は二つの言葉を比較して、両者の違いをあぶりだしてみようという企画です。まず参考に二人の小説家の文章を見てみましょう。

「文化」と「文明」

ここで、定義を設けておきたい。文明は「たれもが参加できる普遍的なもの・合理的なもの・機能的なもの」をさすのに対し、文化はむしろ不合理なものであり、特定の集団（たとえば民族）においてのみ通用する特殊なもので、他に及ぼしがたい。つまりは普遍的ではない。

たとえば青信号で人や車は進み、赤で停止することのりきめは世界に及ぼしうるし、げんに及んでもいる。普遍的という意味で交通信号は文明である。逆に文化とは、日本で言うところ、婦人がふすまを開けるときの、両膝をつき、両手で開けるようなものである。立ってあけてもいい、という合理主義はここでは、成立しえない。不合理さこそ文化の発光物質なのである。 司馬遼太郎『アメリカ素描』

「青年」と「成年」

「青春」ということばがあります。ある社会が若いか、年をとっているか、若者に向かって開かれているか、閉じられているかとしょっちゅう議論される。それでいろいろ考えるのですが、青春ということの定義は百人百様だと思えますけれども、私なりに定義すると、「自分の気に入った、自分に適した職業を見つけるまで、どんどん自由に職業を変えていける条件と心のある時期」を「青春」と云うのじゃないかしら。職業を選んでしまうと、それはもう青春ではなく、「青」が「成」という字になる。職業を選んだときからアダルトになるんじゃないですか。 開高 健

較べてみる材料はいくらでもあります。「文化」と「文明」はどう違うか？「少年」と「青年」はどう違うか？「少女」と「女」はどう違うか？「きれい」と「かわいい」はどう違うか？「冷酷」と「残酷」はどう違うか？「旅」と「旅行」はどう違うか？「未来」と「将来」はどう違うか？それから万古不易の大テーマですけれど、「男」と「女」はどう違うか？あなたなりの定義を聞かせて下さい。

☆ さて、それでは問題です。次の形で名言を作ってみましょう。

が	が

名言をつくろう

パート2、 比喩表現をつかって

まず次の文章を見てみましょう。

「自由は山嶺の空気に似ている。」

自由は自由。山嶺というのは山の頂のことです。

「自由＝山嶺の空気」→うーむ、何のことか、さっぱりわかりませんね。けれどもこの言葉のあとにはこういう言葉が続くのです。

「どちらも弱い者には堪えることは出来ない。」

自由と言うと、とにかくありがたいものと考えてしまいがちですが、そうでもない面もあるんですよ。何をやってもいいという状況に置かれると、今度は人間、自分が何をやっていいかわからなくなってしまう。強いしつかりとした意志を持った人間は自分で自分を律しながらちゃんとやっていくのですが、そうでない人間は易きに流されてずるずると駄目になっていく。ですから「弱い者には堪えることは出来ない。」山の頂上近くの空気というのも、希薄で、強い心肺機能を持った人間でないと高山病になってしまうですよ。だから「自由は山嶺の空気に似ている」というわけなのです。

「自由」と「山嶺の空気」。突拍子もない組み合わせでしたけど、こうして言われてみると、なるほどと納得できますよね。全く違う別のもの共通点をとらえ、一つに結びつけ、表現する。こういう修辞法を「比喩」と言います。

さて、参考問題を見てみましょう。

- A、「人生は一箱のマッチに似ている。」 () ()
- B、「恋愛は戦争に似ている。」 () ()
- C、「片想いはレコードでいえば、裏面の曲のようなものです。」 () ()
- D、「女は猫に似ている。」 () ()

A～Dの空欄にはどんな言葉が入るでしょう。次の選択肢から選んでみて下さい。

- イ、「どんなに一生懸命唄っていても、相手にはその声がかきこえない。」
- ロ、「重大に扱うのはばかばかしい。重大に扱わねば危険である。」
- ハ、「呼ぶと逃げる。そして呼ばない時にやってくる。」
- ニ、「始めるのはたやすいが、終わらせるのは容易ではない。」

できたでしょうか……？

☆ さて、それでは次の形で名言をつくってみましょう。

は

に似ている。

バトルロワイヤル 読めるか難読語100連発

50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 慧眼 矜持 欺瞞 傀儡 蒞蕃 团扇 慰藉 塩梅 斡旋 齟齬 莫斯科 新嘉坡 華盛頓 維納 桑港 紐育 羅馬 伯林 巴里 倫敦 丁抹 伯刺西爾 墨西哥 希臘 埃及 白耳義 土耳其 瑞西 瑞典 西班牙 蚯蚓 猩猩 海象 海豹 不如婦 啄木鳥 駱駝 章魚 烏賊 百舌 万年青 牛蒡 石榴 蒲公英 公孫樹 仙人掌 百日紅 山葵 無花果 女郎花

（ ）

（ ）

100 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51
 矮小 狼狽 坩堝 吝嗇 流暢 磊落 容喙 揶揄 臃腫 朴訥 彷彿 扞拭 敷衍 紊乱 鞞蹙 罷免 畢竟 批准 反駁 跋扈 徘徊 就中 陶冶 獐狂 慟哭 恬淡 凋落 稠密 团欒 駘蕩 忖度 咀嚼 脆弱 精悍 斟酌 箴言 常套 須臾 蹂躪 終焉 驟雨 奢侈 桎梏 時化 慙愧 蹉跎 猜疑 困憊 嚆矢 狷介

（ ）

（ ）

文学史バトルロワイヤル わかるか文学史100連発

1	万葉集	(51	檸檬	(
2	古今集	(52	父帰る	(
3	土佐日記	(53	様々なる意匠	(
4	蜻蛉日記	(54	伊豆の踊り子	(
5	源氏物語	(55	春琴抄	(
6	枕草子	(56	雪国	(
7	和漢朗詠集	(57	風立ちぬ	(
8	更級日記	(58	山月記	(
9	山家集	(59	無常といふこと	(
10	千載和歌集	(60	細雪	(
11	新古今集	(61	津軽	(
12	金槐和歌集	(62	俘虜記	(
13	方丈記	(63	墮落論	(
14	発心集	(64	斜陽	(
15	徒然草	(65	人間失格	(
16	十六夜日記	(66	仮面の告白	(
17	風姿花伝	(67	太陽の季節	(
18	曾根崎心中	(68	金閣寺	(
19	好色一代男	(69	死者の奢り	(
20	奥の細道	(70	夏の闇	(
21	雨月物語	(71	黒い雨	(
22	日本永代蔵	(72	考へるヒント	(
23	南総里見八犬伝	(73	史記	(
24	東海道中膝栗毛	(74	楚辞	(
25	おらが春	(75	帰去来の辞	(
26	古事記伝	(76	春暁	(
27	玉勝間	(77	春望	(
28	舞姫	(78	長恨歌	(
29	たけくらべ	(79	マクベス	(
30	雁	(80	ドンキホーテ	(
31	にごりえ	(81	リア王	(
32	高野聖	(82	ガリバー旅行記	(
33	それから	(83	人間嫌い	(
34	みだれ髪	(84	パルムの僧院	(
35	破戒	(85	女の一生	(
36	蒲団	(86	黒猫	(
37	夜明け前	(87	人形の家	(
38	刺青	(88	月と六ペンス	(
39	明暗	(89	罪と罰	(
40	地獄変	(90	カラマーゾフの兄弟	(
41	枯野抄	(91	戦争と平和	(
42	すみだ川	(92	ワーニャ伯父さん	(
43	一握の砂	(93	復活	(
44	悲しき玩具	(94	変身	(
45	高瀬舟	(95	城	(
46	城の崎にて	(96	夜間飛行	(
47	友情	(97	狂人日記	(
48	暗夜行路	(98	怒りの葡萄	(
49	山椒魚	(99	老人と海	(
50	春と修羅	(100	異邦人	(

答

P26 ①コンビニエンスストア

②ホットドック

③マイクロソフト

④コカコーラ

⑤アクエリアス

⑥リポビタン

⑦ミニスカート

⑧クレヨンしんちゃん

P27 ~ P28

(1) ①× ②○ ③× ④× ⑤× ⑥○

⑦× ⑧○ ⑨○ ⑩○

(2) ①ロ ②ホ ③ハ ④イ ⑤ハ ⑥ハ

⑦ホ ⑧ロ ⑨ホ ⑩イ ⑪ニ ⑫ニ

⑬ロ

P30 (1) ①金鉱 ②労力 ③雷雨 ④加賀

⑤読売 ⑥囚人 ⑦車庫 ⑧著者

(2) ①海 ②河 ③土 ④黄 ⑤瓜 ⑥百

⑦時 ⑧神 ⑨山 ⑩独 ⑪魚

P32 ①春 ②出 ③入 ④白 ⑤丸 ⑥魏

⑦朝(萌) ⑧申 ⑨傘 ⑩晶 ⑪早

⑫岳 ⑬伯 ⑭旺 ⑮田 ⑯連